

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171501083), 法人名 (有限会社 優心), 事業所名 (認知症高齢者グループホームゆうしん), 所在地 (北斗市開発225番地の8), 自己評価作成日 (平成24年11月1日), 評価結果市町村受理日 (平成24年1月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤崎整形クリニックと医療連携を図り、入居者の健康管理に留意しています。事業所と隣接のクリニックのため、医療従事者と職員、入居者は顔なじみになっており、健康状態に関していつでも相談できる環境にあります。又、リハビリ通院により、身体機能の維持・向上を図り、自分のできることを継続していけるよう支援しています。入居者の方の個々の趣味、嗜好に考慮し対応することで、その人らしい生活ができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (http://www.kajgokouhyou.jp/kajgosip/informationPublic.do?JCD=01/1501083&CD=320&PCD=01)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号), 訪問調査日 (平成24年11月28日)

運営母体法人の整形外科クリニックが事業所に隣接されており、リハビリを希望する利用者には、リハビリプログラムが生まれ、身体機能の低下防止に努めており、日ごろ馴染みの看護師による健康管理が行われているので、家族に安心感を与えている。運営推進会議は、地域密着型サービスとしての役割を果たすよう、豊富な議題と、行政、町内会、家族などの関係者が運営を見守り、協力者としての助言をいただき、地域との交流やサービスの質の向上に繋げている。職員は日々の関わりの中、利用者との会話や表情から思いや意向を汲み取り、遠出のドライブ、回転寿司での夕食、思い出の海で昔を語るなど臨機応変に対応し、その人らしい生活が出来るよう支援をしている事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and self-evaluation results.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族のような暖かな雰囲気、信頼のおける健康・生活環境の中、笑顔あふれる人生を共に創造する。定期的に職員間で確認し常に意識してサービス提供している。	「家族のような生活環境の中で健康と笑顔」を主眼とした理念を毎月のユニット会議の中で確認し合い、サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。お祭りの見学をしたり、資源ごみの回収活動に参加、中学生の職場体験学習の受け入れを行い、地域との交流を図っている。	町内会のお祭りや子供相撲大会の見学に出掛け、事業所の敬老会には大勢の方々の訪問があり、中学生のふれあい交流も毎年実施し、ボランティアの受け入れもあり、地域とは積極的に交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、相談に随時応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。町内会の方や市の方、包括支援センターの方が参加。ホームの活動内容の報告や、話し合いを行って参加者からの意見を取り入れている。	2ヶ月ごとに開催している会議は市担当者、包括職員、町内会、家族の参加があり、外部評価の結果報告も調査項目を抜粋して克明に説明しており、議題内容も豊富で活発に意見交換をしている	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、日常的に連絡をとり、常に情報の共有を行っている。	市の担当者とは、メールや電話で相談やアドバイス、情報の交換をしたり、包括職員とは入退居状況、趣味や特技を持っているボランティアの情報を入手するなど、連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修会に職員が参加している。マニュアルを準備し、職員がすぐに見れる場所に保管しており、常に意識してケアに取り組んでいる。	職員は外部研修会に参加している。内部勉強会では、日々のケアの反省を踏まえてスタッフの対応の仕方、個々に合わせた言葉使いなどを含めて意見交換し、職員全員が抑圧感のない暮らしの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを職員がすぐに見れる場所に設置している。研修会の参加や事業所内の勉強会にて共有し、ケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長が研修に参加している。資料を職員が見れるところへ保管している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程、重要事項説明書にて説明し、納得を得て契約を結んでいる。解約時は、その人の状態にあった方法を話し合い、納得を得た上で退居している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書、重要事項説明書にて説明し、面会時や連絡時でも家族からの意見・要望を聞けるようにしている。	家族の訪問時には話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見や要望があった時は、速やかに対応したり、運営推進会議の中でアドバイスを受けて反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングやユニット会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者はユニット会議やミーティングなどで、職員の意見を聴取し、出された意見や提案は、事業所の運営に積極的に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個別面談を行ったり、随時職員の相談を聞く場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じ、道南地区、札幌地区での外部研修会へ参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加で職員が同業者と交流する機会を作っている。南北海道グループホーム協会、北海道グループホーム協会に加入し、ネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問し、面談を行っている。本人の訴えを傾聴し、安心感を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問、又は来設していただき、家族の訴えを傾聴し、安心感を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に情報収集、アセスメントを行い、「その時」のその人の状態、課題にあった支援を行っている。他サービスが必要と判断した場合は、他事業所へ相談することも考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図ることを重視し、意見や思いを理解しあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時、連絡時には日々の暮らしぶりや状態を報告し、一緒に支援内容を考えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報を得ながら、本人の馴染みの場所へ出かけたり、家族と一緒に外出、外泊の支援を行っている。	隣接している母体の整形外科クリニックに通院の知人や友人の訪問があり、元漁師であった利用者は海へドライブするなど、これまでの地域社会との関わりを把握し、継続支援をしている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中で、入居者同士の関係性を把握するようにし、入居者同士が関わり合えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、利用しているサービス事業所の関係者と連絡をとり、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から情報収集し、行動、言動、表情等からくみ取り、本人の思いを把握するように努めている。	職員は常に利用者の立場に立った意向の把握に努め、困難な時は家族から情報を得て意見や要望を聴き、ケアプランの作成にも活用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集し、把握に努めている。入居後も関わりの中で知り得た情報についても共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録、バイタル表に毎日の状態、経過を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族に意向を確認し、介護計画に取り入れている。定期的にカンファレンス、モニタリングを行い、現状にあった介護計画を作成している。	本人・家族からの要望や意見を反映し、職員の基本情報を基に、利用者本位の介護計画を作成している。状況に変化がある時は、随時見直しが行われ、ニーズに沿ったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子やケアの実践を個別記録に記入している。介護計画の見直しの際は、個別記録からも情報収集している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望、状況に応じ、その時のニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて町内会の方、市の介護保険課の方、地域包括支援センターの方から情報収集をし、その人にあった地域資源を活用できるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、従来のかかりつけ医の受診を継続することも可能である。隣接しているクリニックへのリハビリ通院、協力医療機関の往診を行い、健康管理を行っている。	従来の主治医に継続して受診ができ、家族の都合で職員の代行もあるが、検査の時には、家族が同行している。協力医による内科、歯科の往診があり、母体医院の看護師が健康管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している藤崎整形外科クリニックの看護師に日々入居者の健康状態の報告している。日常の関わりの中で気付いたことを相談できる環境にあり、適切な看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に状態の把握のため、本人に会いに行くよう努めている。病院関係者と連絡をとり、情報交換、相談を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期について、事業所の指針を説明している。状態変化時は家族と話し合う時間を設け、方向性を決めている。	看取りについて、契約時に重要事項の中で説明をしているが、家族の同意がなく、職員間での共有にも至っていない。	重度化や終末期のあり方について、管理者は常に意識しているので、家族の意向の把握と同意、職員間での共有を期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の大半は普通救命講習を受講している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災避難訓練を実施している。消防署の方の協力を得て、訓練終了後に反省と助言をもらっている。近所のガソリンスタンド、コンビニエンスストア、町内会等に協力を依頼している。	年2回、消防署の協力を得て、日中、夜間想定の実施し、終了後、消防署員の評価を受けている。緊急連絡網に近隣の事業所や町内会の協力者が入り、備蓄も用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人にあった声がけの仕方、プライバシーに配慮した対応をしている。入居契約時に個人情報使用書について家族に説明し同意を得ている。	利用者一人ひとりに合わせて、プライバシーに配慮したコミュニケーション法を職員全員が共有し、尊厳を重視した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でその人の思いや希望を汲み取り、できる限り自己決定できるよう努めている。表情からも思いをくみ取るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、一人ひとりのペースに合わせた関わりに努めている。都度声がけをし、できる限り本人の希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪、毛染めの訪問サービスを提供している。衣類は家族が準備しており、できるかぎり本人の嗜好に合わせてものを準備してもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	関わりの中から好みのものを把握し、メニューに組み込んでいる。一人ひとりに合わせた食事形態で提供している。毎日職員が交替で同じメニューを摂取している。	食事担当の職員2名が献立を作成、買物や調理をしている。主治医の指示により、きざみ食やトロミ食と補助栄養飲料を取り入れ、利用者の能力に合わせて後片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあった食事形態、量、水分形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの状態にあった口腔ケアを行い、清潔保持している。歯科医師からの助言をうけ、その人に応じた口腔ケアの工夫をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、本人の行動等からトイレのサインを把握し、トイレ誘導している。時間ごとの声かけを行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の個々の排泄パターンを把握し、声かけや、誘導介助でトイレでの排泄を促し、「安易に紙おむつを使用しない」事業所の方針を職員全員で共有し、自立に向けて取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをし、必要な方は乳酸菌飲料、乳製品の提供をしている。散歩等に誘い身体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めずに、一人ひとりの体調や気分を考慮し、楽しんで入浴できるようにその人のタイミングに合わせて対応している。	入浴は週2～3回を目安にしているが、時間帯や曜日を決めず、いつでも入浴できる体制を整え、浴槽に地元産のマルメロを利用したり、ゆず湯などで変化をつけて、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状態を把握し、良眠を得られるよう、就寝前の対応や寝具の工夫を個々に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の管理を職員が行っている。服薬中の症状の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、その人に応じた生活ができるよう支援している。嗜好品や趣味の把握をし、生活の中で喜びを感じられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年内の行事予定に移動行事を4回予定し、個別でドライブや外出に出かけている。その人の生活歴や会話の中から思いを把握し、意向に沿った対応をしている。	季節に合わせて年4回、大沼公園や函館市内の名所をドライブ、事業所周辺の散歩に付き添い、買い物の送迎など、希望に沿って外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理で小額の金銭を所持している。希望時は隣のコンビニに職員と一緒に外へ出て買物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族に電話をして会話したり、家族からの電話があったときは本人に繋ぎ、会話できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広くとり、移動がスムーズにできるようにしている。空気清浄機、加湿器を設置し、臭いや湿度に配慮している。一人ひとりが居心地良い場所を確保できるよう環境整備に努めている。	事務室を中央に左右に各ユニットがある平屋造りの事業所内は、加湿器や空気清浄機が稼働し、不快な臭いや音もなく、レースのカーテンで採光を調節し、家具の配置も家庭的で、居心地の良さに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人によって、一人で過ごせるように一人用テーブルを設置したり、気の合った入居者同士で過ごせるようにソファやテーブルを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族と相談し、在宅生活時に使用していた家具や日常生活品を用意して頂き持ち込んでいる。又、その人の状態に合わせて、生活しやすい環境作りを努めている。	家庭で使用していた馴染みの家具や日用品、人形などがあり、家族の写真を飾るなど、自分の部屋として過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要な場所に設置しており、車椅子でもスムーズに移動しやすい広い空間を作り、安全に配慮しながら自立した生活が送れるよう努めている。		